ぶらりわが街宮沢界隈

(41) 宮沢町の諏訪神社は、長野県「諏訪大社」4 宮のうち何処が総本宮？

○　**諏訪大社「信濃の国一の宮」**一全国の神社を包括する神社本庁に属している約 8 万社の第 4 位 5 千社の総本社「＊全国の神社の勧請(かんじょう)元となった中心的な神社を総本宮や根本社と呼ぶ」であり創建は不明だが国内にある最も古い神社の一つとされている。諏訪湖をはさんで 2 社 4 宮で構成されているが社格に序列はありません。

•祭神　①建御名方神(たけみなかたのかみ)　②八坂刀売神(やさかとめのかみ)

•神紋　「梶(かじ)の葉＝葉が三つ葉で三本梶」　Ⅰ四根(足)　Ⅱ五根(足)

○上社•本宮(ほんみや)＝諏訪市中洲宮山 1	祭神①	神紋Ⅰ
○上社•前宮(まえみや)＝茅野市宮川 2030	祭神②	神紋Ⅰ
○下社•秋宮(あきみや)＝諏訪部下諏訪町 5828	祭神①•②	神紋Ⅱ
○下社•春宮(はるみや)＝諏訪部下諏訪町 193	祭神①•②	神紋Ⅱ

神紋

＊梶の木一暖地に多いクワ科の落葉喬木。高さ 10m、葉は 5 または 3 葉、春から夏に淡緑色の花、雌雄果樹、雄花穂は尾状•雌は球状、果実はクワの実状で熟すれば紅色。

○宮沢町の諏訪神社－　祭神は建御名方神(たけみなかたのかみ)「武神•農業神」、神紋は四根(足)ですので、「諏訪大社上社•本宮」からの勧清＝神霊を分霊して祀ったことをいう。で創建です。

宮沢町の諏訪神社

＊千木(ちぎ)－神社の社殿に屋根棟の両端に交叉した

木で、祭神が男神「外削り」女神「内削り」で男神か女神かを確認出来ますが、ただし、諏訪神社の社殿屋根には有りません。

○諏訪大社の神穂(始まり)－「古事記」によると、建御名方神(たけみなかたのかみ)は大国主命(おおくにぬしのみこと)と沼河比売神(ぬなかわひめのかみ)の御子神。「国譲り」で、建御雷神(たけみかづきのかみ)(＊鹿島神宮の祭神)との力比べに敗れて、諏訪まで走り降伏して天孫への服従を誓い、妻の八坂刀売神(やさかとめのかみ)ともに鎮座したという。鎌倉期以降は武士の信仰を集めました。

欅(けやき)にある宿木(やどりぎ)

○諏訪神社の欅(けやき)•宿木(やどりぎ)一鳥居の手前「諏訪神社由緒記」碑には、「鎮座の年代は詳らないでありますが境内に現存する御神木の欅の樹齢が約 600 年と言われているところから室町時代前期と推定されます」と記されているように何本かの巨木があります。

その欅に珍しい「宿木＝寄生木」が何本か見られます。一落葉広葉樹(欅•ブナ•エノキ等)高い位置に実を食べたトリが糞とともに種を運び、地面に根を張らず樹木から水分と養分を吸収し、芽吹き成長し高さ 30～100cm、茎は緑色で二股状によく分枝し全体球状になる。葉は細長く先が丸く対生、雌雄異樹で、早春に淡黄色の小さな花を咲かせ後に球状の淡緑色の果実を結ぶ常緑樹です。

ヨーロッパでは類似種が多く、赤色の果実はクリスマスの装飾に用いられ真冬でも枯れない縁起が良い植物とされています。境内の欅が落葉～新芽出るまで特に目立つので珍しい樹を見上げて探してください。

(文•写真)防犯宮沢支部　西山　禎一